



インドネシア

BOP層家庭訪問調査レポート

- 調査実施日：2013年8月
- 調査場所：東ジャワ州スラバヤ市グヌンサリ地区
- 調査対象：リリス(仮名)さんの一家
- 換算レート：100インドネシアルピア≒0.89円(2013年8月末)



リリスさん



収支内訳

- ・1か月の収入内訳（不定期）
- ・支出内訳(光熱費は、電気代が毎月6万ルピア、水代が毎月7~8万ルピアかかっている)



家族構成

リリスさん(仮名 65歳)、夫は17年前に他界。子供は6人だが、4人は結婚してスラバヤを離れている。残る2人の子供(男女)と、その子供2人(男女)の計5人で生活している。末っ子は現在18歳。孫は小学生。

世帯収入

生活は子供の収入に頼っているが、子供は建設現場や工事現場で働いたり、米を売ったりする日雇い仕事で、1日当たり5~10万ルピアの稼ぎが不定期にある。彼女自身も、人に頼まれて洗濯やアイロンがけをするが、その収入はわずかである。スラバヤを離れた子供から定期的な仕送りはなく、レバラン(断食明け大祭)で帰省したときにお金をもらう程度である。

職業

以前は家の近くでワルン(小さな商店)をやっていたが、場所が売られてしまい、できなくなった。夫は17年前に他界。亡き夫は、水を売ったり、井戸を掘ったりするのが仕事だった。



住居

家は、近所に住む学校の先生からもらったもので、15年以上経っている。壁は板張り、極めて質素な造りである。部屋は寝室、リビング+台所、浴室兼洗濯室の3部屋で、全部で15~20㎡ほどと狭い。

リビング・台所



(電気炊飯器。このクラスの家庭でも、最近のご飯を、鍋ではなく電気炊飯器で炊くようになってきている)



炊飯器や携帯電話の電源コード



リビングのテレビ

寝室



靴箱



浴室兼洗濯室



洗剤や歯磨き粉の棚



洗濯物

水を中心とする生活リズム

家の一大事は水である。水道が引かれていないので、隣の家の井戸からホースで水を引っ張っている。これが午前2～4時の2時間しか機能しない。このため、彼女は水の番をするため、夜中に起きていなければならない。水は、ポリタンク(ミネラルウォーターのガロン容器を含む)4つと水桶1つに溜める。これを終わると、洗濯や料理をして、食事が終わった後、昼から夕方まで就寝。時には寝ないこともある。



台所で調理用に使う水。ミネラルウォーターのガロン容器に溜めている



浴室兼洗濯室。青い桶やバケツに水を溜め、洗濯や沐浴に使う



食事

質素な食事・調理

調理は、野菜の煮込みスープとサンバル(辛味調味料)とご飯といった質素なものである。サンバルとご飯のこともある。

食材は近くのワルン(小さな商店)で買うが、お金がないので、ツケで買うことが多く、子供の稼ぎがあって、始めてワルンに支払う、ということが多い。幸いにも、今のところ家族は皆健康で、病気などはしていないという。



インスタントラーメンの保管棚。自家用以外に、一部は販売もしている様子



シャンプーは1回ごとの小分け袋のみ。自家用以外に、一部は販売もしている様子

JETRO

訪問後の感想

リリスさん一家は、不安定な日雇い仕事の子供の収入に頼る厳しい生活を強いられている。現金が乏しいため、毎日の食材の購入はツケ払いが普通となり、近所から色々分けてもらったりしながら、生活を成り立たせている。

ただし、学校教育費や医療費はスラバヤ市が無償(教科書代は有償)としているため、病気などをしない限りにおいては、大きな負担とはなっていない。

スラバヤ市の中心部でありながら、リリスさん宅には水道が引かれていないため、ホースで井戸から水を引き、それが午前2～4時の2時間しか水が来ないという極めて不便な状態にある。この水の来る時間帯に合わせて、リリスさんの生活スケジュールが構成されている。こうした事態が現実存在していることには、正直言って驚いた。

それでも、リリスさんはこうした状況への不満を口に出さない。前向きに生きていくことが大切だと何度も強調した。その気高さを感じる彼女の言葉に、真面目に一生懸命生きている名もなき人々の存在がインドネシア社会を支えていることを確認できたような気がした。



JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。